

合同文化祭 2025.1.26 〈七高祭〉

初のカミケンシルクドームでの開催となった合同文化祭〈七高祭〉。ステージ発表やワークショップなど、盛りだくさんの1日を高校生たちは笑顔で駆け抜けました。



当日は約 3,000 人もの方に来場いただき、盛況のうちに幕を閉じた合同文化祭。

しかし「七高祭」はこの日1日だけではありません。合同文化祭に至るまで、高校生は、関わる大人たちとともに真剣に悩み・考え、地域に自ら足を運び、その過程自体が「まちの賑わい」となっていました。

そして、合同文化祭が終わった後も、その想いは失われずにまちの中で新たな賑わいを生んでいます。

◀これまでの七高祭、これからの七高祭を見てみよう！



詳しくは、
コチラ



そもそも高校生プロジェクトってなに？

市内には公立・私立を合わせて5つの高校と1つの特別支援学校（高等部）があり、人口規模に対して高校の数が多いたことが市の特徴でもあり強みでもあります。市では、市内で学ぶ高校生を大切な地域資源と考え、平成20年から高校生プロジェクトを実施しています。

これまでの七高祭を振り返る



▲令和3年度：市の魅力発信冊紙の制作・写真展の開催



▶▼令和4年度：WEB上での合同文化祭、PR動画制作、広報紙制作



▲令和5年度：課題解決型プログラム・合同文化祭・産学官連携プログラムの実施

このまちに関わる人
すべてをつなぐ「場」

コロナ禍を経て令和3年度にプロジェクトが再始動してからは、「高校生」はもちろん「市民」、「学校」、「行政」が関わりながら、七高祭でしかできない地域連携活動を行ってきました。今では、それぞれがより広く、より深く関わりあうことで、まちの賑わいを生む交流の「場」となっています。

令和6年度は、地域の特性や魅力を知り、4つのテーマに対してワークショップやフィールドワークを行い、特性をいかす方法や魅力の発信方法を考える「地域連携プログラム」、高校生が企画・運営し6校が一堂に介して行う「合同文化祭」の2つを軸に、地元企業と連携して商品開発等に取り組む「地域コラボ企画」や、「マチノブカツ」など、学校と地域の垣根を越えた取組が行われました。

今年度実施したプロジェクト

合同文化祭 P03

高校生が主体的に企画・運営する6校での合同文化祭を開催しました。

日時：1月26日(日) 午前10時～午後4時
会場：カミケンシルクドーム

地域連携プログラム P04-05

地域の特性・魅力を知りワークショップやフィールドワークを経た成果を合同文化祭で発表しました。

1. 福祉の推進
2. 児玉地域の魅力発信
3. 児玉駅周辺の賑わい創出
4. スポーツの推進

地域コラボ企画 P06

「Bakerys Kitchen ohana」、「本庄農業女子」「NINOKURA」の皆さんと商品開発等に取り組みました。

マチノブカツ P07

昨年度高校生が立ち上げた「sustaina部」「ゲーム部」が合同文化祭にブースを設置、取組を発表しました。



令和6年度の七高祭は〈吉本興業株式会社〉

YOSHIMOTO の皆さんがサポート！

吉本興業所属の芸人の皆さんが約1年間、それぞれのプロジェクトに参加し高校生と伴走！笑いに包まれた和やかな雰囲気の中で、プロジェクトを導いてくれました。